

授業科目

公衆栄養学実習Ⅰ

【担当教員名】 村山伸子	対象学年	3	対象学科	栄養
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	45

【＜概要＞又は＜一般目標：GIO＞】

公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や隣域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。特に、公衆栄養学実習Ⅰでは、公衆栄養学Ⅱ（講義）で学ぶ公衆栄養マネジメントの理論、公衆栄養アセスメント、計画、実施、評価の理論と方法について、実習をととして体験的に身につける。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：SBO＞】

1. 公衆栄養マネジメントの概念と枠組みについて、イメージし、記述できる。
2. 対象や目的に応じた公衆栄養アセスメント（食事調査等）方法を選択できる。
3. データから地域の栄養課題を読み取り、栄養疫学的な解釈ができる。
4. 対象集団の課題や社会のニーズにあった目標設定、公衆栄養計画を立案できる。
5. 公衆栄養計画の評価計画を立案できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	実習のオリエンテーション：実習の目的と進め方、アセスメントの設計	1, 2	講義
2	公衆栄養アセスメント：食事記録の面接確認と解析（重量換算）	2	ワークショップ
3	公衆栄養アセスメント：食事記録の解析（栄養素、食品群別摂取量）	2	ワークショップ
4	公衆栄養アセスメント：料理レベル、食事バランスガイド等を用いた診断	2	ワークショップ
5	公衆栄養アセスメント：対象者の食事摂取基準を算出し診断する	2	ワークショップ
6	公衆栄養アセスメント：食事と健康データ、生活因子データの関係の分析	2	ワークショップ
7	発表会	2	ワークショップ
8	自治体の健康、栄養データから課題の把握	3	ワークショップ
9	自治体の栄養課題に対応した目標の設定	3	ワークショップ
10	既存の対策を調べる	4	ワークショップ
11	既存の対策の改善案の提案	4	ワークショップ
12	同上	4	ワークショップ
13	評価計画をたてる	5	発表
14	発表会	1-5	発表

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	公衆栄養学Ⅱと共通			
参考書	公衆栄養学Ⅱと共通			
その他の資料				

【評価方法】 出席 4 0 % 積極的参加 2 0 % レポート 4 0 %	【履修上の留意点】 参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。論理的に考えることに慣れること。
---	--